

沖縄担当大使通信
第 10 回 交流の大切さ

2026 年（令和 8 年）9 月 30 日



新着隊員説明会（2026 年 9 月 4 日、於：キャンプ・ハンセン）

沖縄は、9 月に入っても暑い日々が続いています。9 月 13 日に沖縄県知事選挙が行われ、新人の古謝玄太候補が当選して、本 30 日から古謝新県政がスタートします。私も、引き続き県内の幅広い皆様の声に耳を傾けながら、日々の仕事に着実に取り組みたいと思います。

今月出席した行事や会合を振り返ると、キャンプ・ハンセンの新着隊員説明会、嘉手納外語塾でのミニ外交フォーラム、宜野湾市の中学生短期海外留学派遣事業報告会、タンザニア・ザンジバル代表団の来訪、沖縄ラオス交流フェア、そして沖縄市とうるま市でのエイサーまつりなど、沖縄で幅広い交流を進めることの大切さを改めて感じました。今回の通信では、交流の大切さに焦点を当てて、一連の行事や会合で考えたこと、感じたことを報告させていただきます。



新着隊員説明会（2026年9月4日、於：キャンプ・ハンセン）

●キャンプ・ハンセンの新着隊員説明会

9月4日、キャンプ・ハンセンで、部隊の交代に伴い新たに着任した約400名の隊員に対する[新任者説明会](#)が開催され、私も招待を受けて初めて出席しました。この説明会は、新着隊員が沖縄の文化や歴史を理解し、地域社会の一員として責任ある行動を促すために行われています。

地元・金武町の[金城司町長の講話](#)では、これまで発生した米兵による事件・事故にも言及しつつ、金武町とキャンプ・ハンセンが長年にわたり交流を重ね、友好的な関係を築いてきたこと、新兵の皆さんにも地域の一員として、そして親善大使のような気持ちを持って行動していただきたい、との話がありました。また、地元の若者を代表して、本年3月に[「アメリカで沖縄の未来を考える」\(TOFU\) プログラム](#)に参加した同町出身の高校生から英語で、金武町の魅力やお勧めグルメを紹介する歓迎の挨拶がありました。

キャンプ・ハンセンの所長や渉外官も説明の中で、新着隊員が地元の文化行事やボランティア活動に積極的に参加するよう促していました。金武町とキャンプ・ハンセンの相互理解と交流の歴史を実感し、大変感銘を受けました。



ミニ外交フォーラム（2026年9月18日、於：嘉手納外語塾）

●ミニ外交フォーラム

9月18日には、嘉手納外語塾で開催されたミニ外交フォーラムを参観しました。このミニ外交フォーラムは、本年4月の「[アメリカで沖縄の未来を考える](#)」
[\(TOFU\) プログラム事後報告会](#)で第2グループが発表したアクションプラン
 を具体化して実施したものです。

TOFU プログラムへの参加から、「日米関係を真面目に語れる環境をつくる」
 「対話を通じてタブーを乗り越える」「いろいろな視点を知る」ための相互理
 解が重要と感じ、その実践として、嘉手納外語塾生と嘉手納飛行場所属の若年
 層を対象に、「日米の文化、生活スタイル、環境の違いを話し合い、お互いの
 地域への理解を深める」とともに、「対話を通じていろいろな視点があること
 を体感してもらう」ための意見交換セッションを企画しました。

参加者から事前にアンケートを取って、沖縄とアメリカの文化やイメージ、疑
 問点などをとりまとめ、それをもとに英語で議論を行いました。参加した学生
 のみならず、企画した TOFU プログラムのグループ2の学生にとっても貴重で
 有意義な機会になったと感じました。



宜野湾市中学生短期海外留学派遣事業報告会
(2026 年 9 月 4 日、於：宜野湾市中央公民館)

●宜野湾市中学生短期海外留学派遣事業

9 月 4 日、宜野湾市中学生短期海外留学派遣事業の報告会が、宜野湾市中央公民館で開催されました。伊波保勝教育長の挨拶に続き、ご家族や出身中学校の校長・英語科主任、宜野湾市職員などが見守る中、派遣された中学生 10 名が、7 月 30 日～8 月 13 日のシアトル短期留学の体験について、それぞれ英語で約 3 分間の報告を堂々で行いました。学んだことは、「英語は間違えて話しても聞いてくれる」「どう言うかでなく何を言うかが大事」「アメリカでは様々な背景の人たちが共存している」「豊かな国にも貧困がある」など様々でした。

その後、佐喜眞淳市長、上原朝之・シアトル沖縄県人会長、保護者代表からの挨拶がありました。私も招待を受けて出席し、挨拶の中で、この事業は英語学習のみならずホームステイでの交流、大学や最先端企業の視察などすばらしい内容であり、今回の留学を契機に宜野湾とアメリカ、そして様々な国とをつなぐ架け橋として活躍してほしいとのメッセージを贈りました。

今回の派遣は第 21 期とのことです。市の事業として、中学生のアメリカ短期留学をこのような形で毎年継続することは、生徒の将来の可能性を大きく広げる大変有益なものと感じました。



タンザニア・ザンジバル代表団の外務省沖縄事務所訪問
(2026年9月14日、於：外務省沖縄事務所)

●タンザニア・ザンジバル代表団の沖縄訪問

9月13日～16日にはタンザニア・ザンジバル代表団が沖縄を訪問し、14日に[外務省沖縄事務所で意見交換](#)を行いました。タンザニアのザンジバル諸島・自治区は観光資源に恵まれ、ブルーエコノミーの振興を目指すなど沖縄と共通点が多いことから、知見の共有と交流の推進に向けて、東京と大阪に加えて沖縄を訪問先として選んだとのことでした。本年1月に外務省と沖縄県が共催した[駐日外交団の沖縄視察ツアー](#)に、アンダーソン・グクウィ・ムタテンブワ駐日タンザニア大使が参加したことが契機となりました。

私からザンジバル代表団に対しては、外務省沖縄事務所の役割に加え、沖縄の歴史と文化、ビジネスとイノベーションについて説明を行いました。ザンジバルは、島嶼観光政策フォーラムを韓国の済州島などと連携して推進しており、沖縄とも関係を深化していきたいとのことでした。今回、代表団は沖縄総合事務局や沖縄科学技術大学院大学（OIST）、琉球大学、美ら海水族館、首里城なども訪問したとのことでした。今後とも、沖縄の強みを世界に生かせる機会を後押ししていきたいと思います。



ラオス沖縄交流フェア開会式
(2026年9月24日、於：パレットくもじ前交通広場)

●ラオス沖縄交流フェア

9月24日～26日、ラオス沖縄交流フェアが那覇市内のパレットくもじ前交通広場で開催されました。[初日の開会式](#)にはアンパイ・キンダヴォン駐日ラオス大使や他の来賓とともに私も出席して挨拶を行いました。

昨年、日本とラオスは外交関係樹立70周年を迎え、本年も要人來訪が相次いでいるのみならず、「万国津梁」の歴史を持つ沖縄も、ラオスとの交流を積み重ねてきています。コープおきなわは2017年からJICA草の根技術協力事業で、泡盛のルーツとも言われるラオラオ酒の協同組合設立支援や沖縄輸出などに取り組んでいます。ラオス南部水害に際しては、沖縄の高校生が募金活動と被災地訪問を行いました。フェアを主催する琉大発スタートアップ・琉球コーヒーエナジーの高木代表も、コーヒーを通じてのラオスとの連携を進めています。

会場では、ラオスのコーヒーやビール、料理の試食や民芸品の展示も行われていました。外務省は、今回のフェアの意義を踏まえ、後援しています。これからも、沖縄の海外との様々な交流を支援していく考えです。



沖縄全島エイサーまつり（2026年9月6日、於：コザ運動公園陸上競技場）

●エイサーまつり

8月下旬の旧盆の後は、エイサーの時期です。9月4日～6日、沖縄市で第71回沖縄全島エイサーまつりが開催され、県内各地の青年会や子供会など多数の団体によるエイサーが次々と披露されました。9月19・20日には、県道75号線で第21回うるま市エイサーまつりが開催され、エイサーに加えてうるま市ゆかりの団体が参加するパレードも行われました。いずれのエイサーまつりも、地元の市民のみならず在沖米国総領事館や在沖米軍の関係者も家族連れで参加し、本場ならではの迫力を楽しみながら、沖縄市やうるま市の市長をはじめ関係者と交流していました。

沖縄ではエイサーやハーリー、大綱引きなどの文化行事が、年間を通じて各地で多数開催されています。沖縄に在住する外国人が沖縄の人々との交流や理解を深める機会として、今後も生かしていくことが大切と感じました。私もこのような文化行事にできる限り参加して、交流を盛り上げていきたいと思います。

沖縄担当大使
紀谷昌彦